
風工学と風力エネルギー分野における若手の取り組み

YAMAGUCHI, Atsushi



THE UNIVERSITY OF TOKYO

風工学が扱う問題

- 構造物・建築物の耐風設計
- 鉄道の風防災
- 空気力学
- 大気境界層内の風の性質

関連する学会

- 土木学会
- 建築学会
- 気象学会
- 電気学会
- 機械学会

学会員の所属

- 大学
- 研究機関
- 建設会社
- コンサルタント

歴史

- 1976年「風工学会」設立
- 1982年「日本風工学会」に改称
- 2009年「若手スクール」開始

主な活動

- 年次大会(毎年5月)
- 若手スクール(毎年5月)
- 風工学シンポジウムの主催・共催(隔年)
- 学会誌・論文集の発行(年4回)
- 研究委員会の開催
- ホームページ

<http://www.jawe.jp/>

2009年より若手会員(厳密な定義なし)の交流を目的として、当時の会長(東大:藤野陽三先生)の発案により発足

- 懇親会(若手会員の話題提供)
- 講義
- 見学会

年次大会の前後に、学会の公式行事として、学会の費用負担で実施

	場所	見学場所
2009年	東京大学	レインボーブリッジ
2010年	横浜国立大学	ランドマークタワー
2011年	大阪市立大学/本四高速	明石海峡大橋
2012年	日本大学/鉄道総研	鉄道総研国立研究所
2013年	東北大学	東北大学流体研究所
2014年	東京大学	東京スカイツリー
2015年	神戸大学	理化学研究所「京」

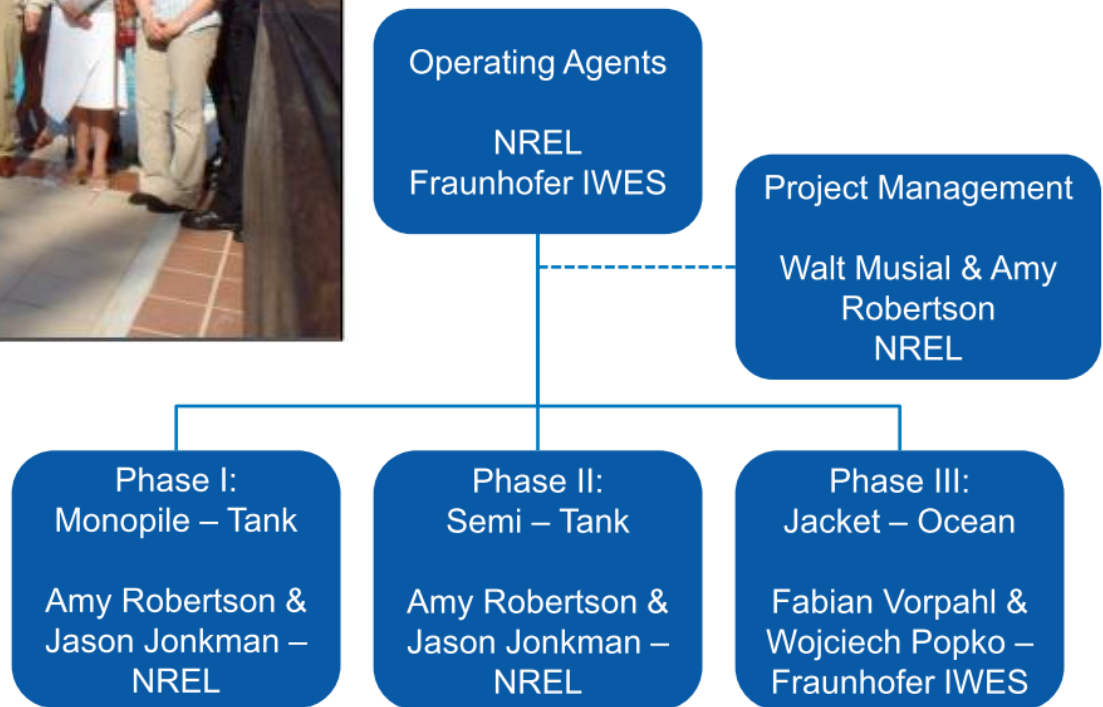


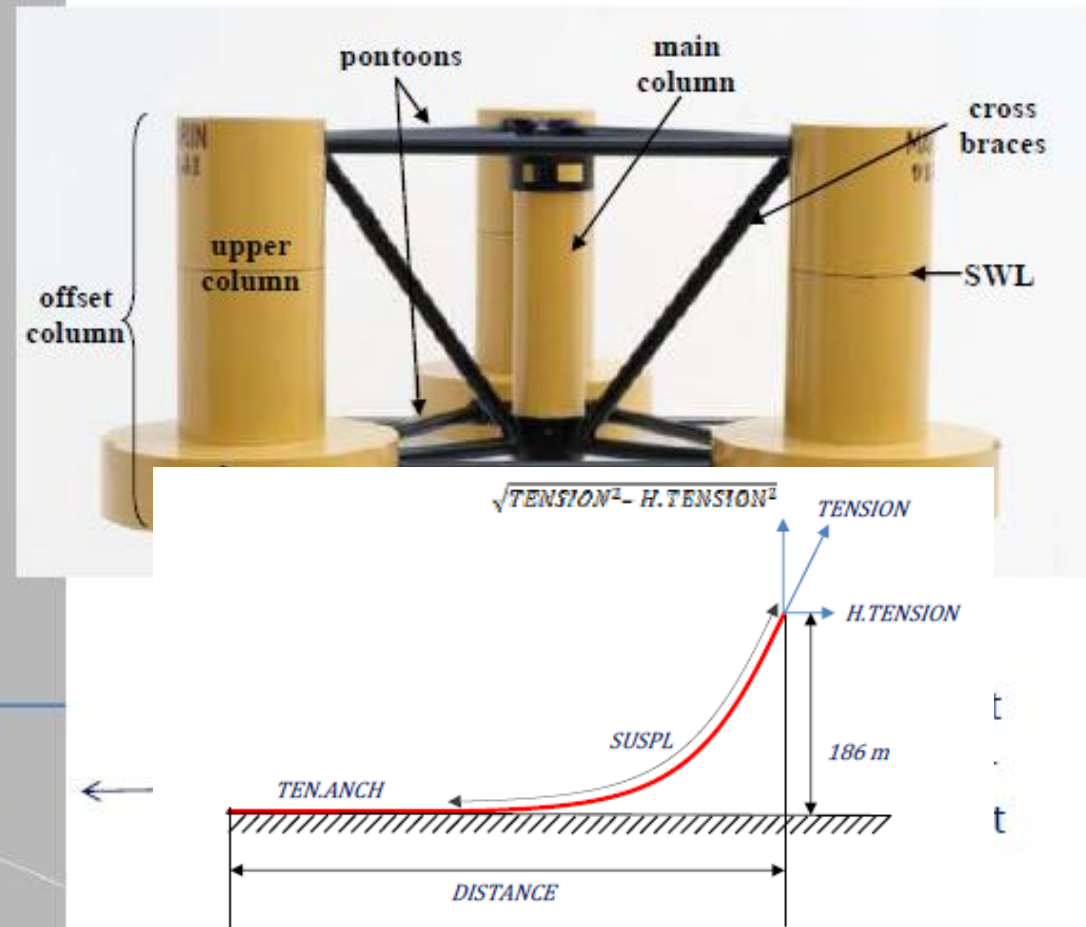
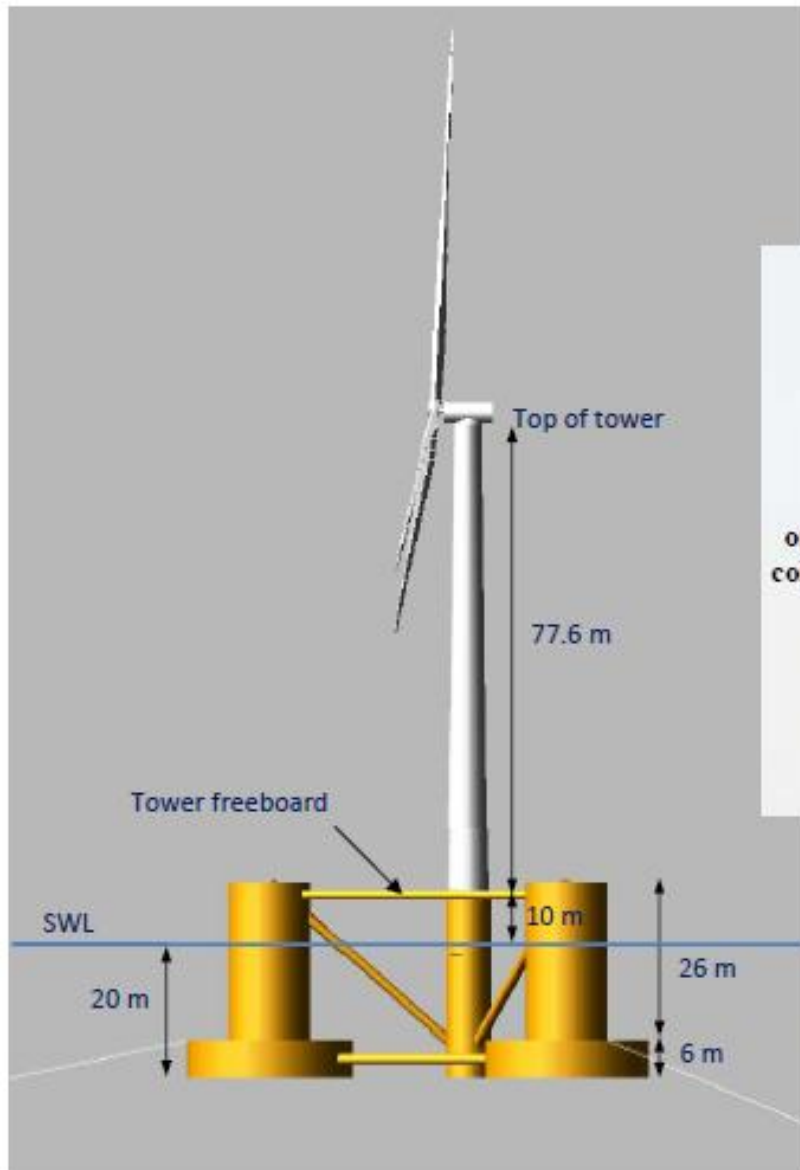


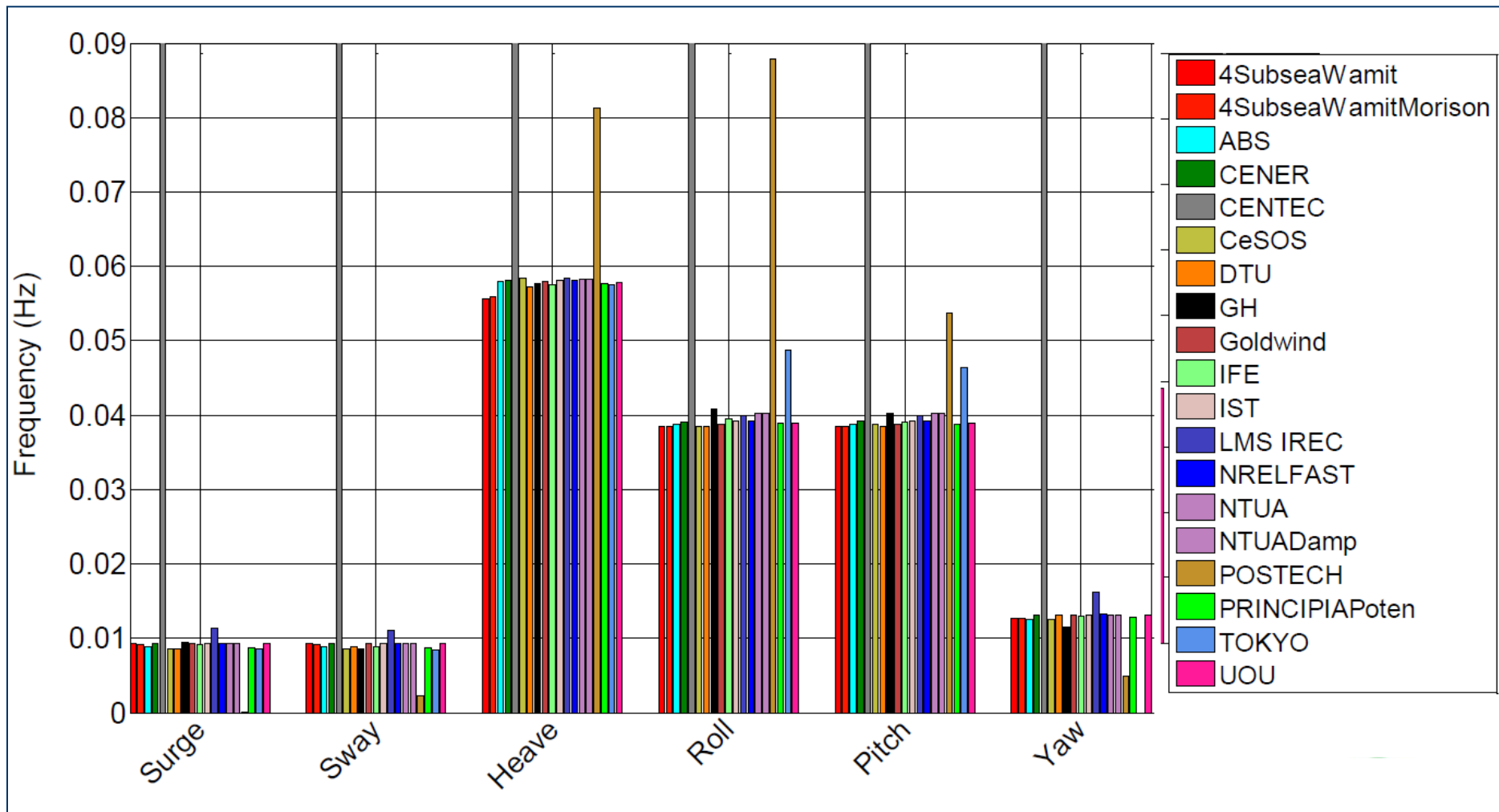


- 普段、交流する機会のない(特に民間企業の)若い会員間での交流の場となった。
- 学術的な内容について、「偉い」先生がいない場で若い会員同士で真剣に議論できる場となった。
- スタートは「上」(会長)からの指示で始まった若手スクールだったが、実施するにつれ、若い会員間の交流が深まり、自主的な研究会、交流会などの動きにつながっている。

- 世界的にも「若い」分野であり、若い研究者の数も多い。
- IEA (International Wind Agency) wind という機関で多くの国際研究プロジェクトが行われている。
<http://www.ieawind.org/>
- 国際研究プロジェクトについても、20台～30台の研究者が主要な役割を果たしている。







- ・6自由度における固有振動数は殆どの値が一致する。
- ・FEMモデルを用いる場合に、コラムの慣性モーメント等を正確に評価する必要がある。